

AOI TORI BUNKO

講談社 青い鳥文庫

★パズル★

パスワード「謎」ブック

— パソコン通信探偵団事件ノート・番外編 —

松原秀行／作 梶山直美／絵

AOI TORI BUNKO
番外編
PASSWORD SERIES





講談社 青い鳥文庫 186-7

パスワード「^{パズル}謎」ブック

——パソコン^{つうしんたんていだん}通信探偵団事件ノート^{ばんがいへん}番外編——

^{まつばらひでゆき}
松原秀行

1998年12月15日 第1刷発行

2000年1月11日 第5刷発行

(定価はカバーに表示してあります。)

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3536

販売部 (03) 5395-3625

製作部 (03) 5395-3615

N. D. C. 913 318p 18cm

装 丁 久住和代

印 刷 図書印刷株式会社

製 本 図書印刷株式会社

© HIDEYUKI MATSUBARA 1998

Printed in Japan

本書の無断複写(コピー)は著作権法上
での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-148498-2 (児二)

(落丁本・乱丁本は、講談社書籍製作部あてにお送
りください。送料小社負担にておとりかえします。)

■この本についてのお問い合わせは、講談社児童局
「青い鳥文庫」係にご連絡ください。

パズル
パスワード「謎」ブック

— パソコン通信探偵団事件ノート 番外編 —

江苏工业学院图书馆

藏书章

松原秀行／作 梶山直美／絵



講談社 青い鳥文庫

もくじ

プロローグ・謎のはじまり……………5

謎のとびら・その1「恐竜大陸」……………23

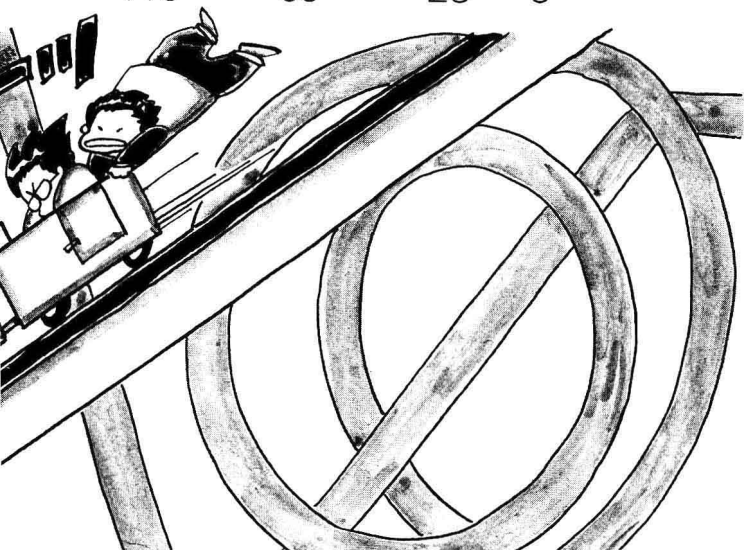
謎の幕間1

謎のとびら・その2「不思議遊園地」……………69

謎の幕間2

謎のとびら・その3「パスワード横丁」……………119

謎の幕間3



謎のとびら・その4「ロボットシティー」
173

謎の幕間 4

謎のとびら・その5「まぼろし図書館」
213

謎の幕間 5

謎のとびら・その6「暗号惑星」
257

エピソード・謎のおわり
309

あとがき
316





プロローグ

「なぞ謎のはじまり」

『探偵。』

レイがキーワードを打ちこみ、「検索」の項目をクリックした。すぐさま、パソコンの画面にこんな表示がうかんできた。

『検索結果…八千七十九件。』

「ひゃあ、すごい！」

「こんなにあるのぉ！」

画面をのぞきこむ五人の電子探偵団員が、口々におどろきの声をあげる。レイがにやつと笑って、いきなりネロ口調でいった。

「まったくだな。しかし諸君、これもいまの世の中、探偵の力がどれほど必要とされているかのいい証明ではないかね。」

風浜駅前のお喫茶店「ベーカ―街」。本場イギリスじこみの紅茶とサンドイッチで評判の店だ。平日のお昼どきは、ランチ目当ての客でいつも大にぎわいとなる。

きようは日曜日。休業日とあって、おとずれる客はいない。かわって店内には、五人の小学生の姿があった。小海マコト、鳥遊飛鳥、仙崎ダイ、林葉みずき、神岡まどかの五人だ。

といえは、「パスワードシリーズ」の読者にはもうおわかりだろう。そう、きょうは電子探偵団のオフの日なのだ。（わからない人は、『パソコン通信探偵団事件ノート①⑥』を読んでください！）

テーブルの上には、一台のノートパソコンが置かれていた。マウスを操作するのは、店主で元コンピュータエンジニアの野沢レイ。電子探偵団団長ネロだ。そもそものはワープロをつかってスタートした電子探偵団だったが、いまではメンバー全員がパソコンにチェンジしていた。

「であれば、諸君もそろそろ通信だけではなく、インターネットにもチャレンジするべきではないかな。さまざまなホームページがあつて、どんな情報でもひろいだせるといつてもいいすぎではない。これからの時代、探偵には必須アイテムになるはずだ。どうかね、名探偵諸君。よかったら、一度このわたしが、インターネットの特別講座をひらこうかと思うのだがね。」とのネロの発案で、きょう、探偵たちは「ペーカー街」に集合したのだった。

「それでは手はじめに、どこかのホームページにアクセスしてみるか。」

つぶやいて、ネロレイがパソコンを立ちあげた。インターネットでホームページを見るための手順はここでは省略するけれど、なにしろホームページは星の数ほどある。そこで、どんな内容のページが見たいのか、具体的に指示する必要がでてくる。

その方法ほうほうのひとつが、レイが実行じつこうしたキーワード検索けんさくだ。あることばをキーワードとして打ちこめば、それに関係かんけいあるホームページひようじが表示ひょうじされるというわけだ。つまり「探偵たんてい」関連かんれんのホームページは、じつに八千七十九件けんもあったことになる。五人にんがびつくりぎょうてんしたのもわりはなかった。

やっぱり探偵たんていって、と、マコトは思おもった。みんな、ものすごく興味きょうみあるみたいだ。できたら探偵たんになりたいって、だれもがうずうずしてるんじゃないのかな……。

「さて、どうする、諸君しよくん？　ひとつひとつのホームページをのぞいてみるかね？」と、ネロ。探偵たんていたちは困惑こんわくした。見みたいことは見みたい。でも、この数かず。とてもじゃないけど、全部ぜん部ぶなんか見みきれっこない。みずきが、はいつと手てをあげて、

「それはまた今度こんどにしようよっ。それよかさあ、あたし、ちょっと見みてみたいのがあるんだけどなっ。いい、ネロ？」

「ほほう、なにかね？」

みずきはキーボードに手てをのばし、こんなキーワードを打ちこんだ。

『謎なぞ。』

「ねっ。これだと、謎の問題とかがでてるホームページにアクセスできるじゃん。みんなで解いてみようよっ。」

とたんに、全員の目がかがやいた。

「あ、それ、おもしろそうね。」と、まどか。

「やろうやろう！」と、ダイ。

「いいんじゃないか。ま、わが電子探偵団にかかったら、どんな問題も一発クリアだろうけどね。」と、飛鳥。

マコトも大きくうなずいていた。謎の問題か。そうときいてはだまっていられない。

「うん、いいところに目をつけたね、みずき。インターネットをやっている人間にはパズルニアも多いから、きつと楽しめるんじゃないかな。」

ネロはレイ口調にチェンジして、ふわっといすから立ちあがった。カウンターからティーポットをはこんできて、五人のカップに熱い紅茶をついでまわる。

「あ、いけない。お茶うけをきらしていたんだっけ。近くの店でクッキーでも買ってくるから、みんな、そのままつづけていてくれるかな。」

いいのこして、レイは「ベーカー街」をでていった。

「よし、それじゃみずき、はじめようか。」

マコトにうながされ、みずきは「検索」の項目をクリックした。さっきとおなじように、ホームページの件数が数字で表示されるはずだったが……。

え？

探偵たちは目を見はった。画面に、こんな文字があらわれたからだ。

『謎ブック』

謎ブック？　なんだ、それは？

パソコンの画面に、長方形の本の表紙みたいなものがうかんできた。周囲は水色にふちどられ、四すみに一羽ずつ白い鳥がいる。上のほうに「AOITORI BUNKO」という文字がある……。

つぎの瞬間だった。

ぴかーっ！！！！

画面から、フラッシュのようなまぶしい光があふれでてきた。同時に、探偵たちの体が、すごいいきおいで画面に吸い寄せられていった。

「わっ、わわ~~~~~!!」

五人が口々に悲鳴をあげる。そして。あとは、なにがなんだかわからなくなった……。十分後。「ベーカー街」のとびらがひらき、レイがもどってきた。

「ただいま。おいしいクッキーを……。」

ことばがとぎれた。レイは首をかしげ、店内を見まわす。五人の探偵たちの姿はどこにもなかった。ただ、テーブルの上にノートパソコンと、ほんのり湯気をたてる五つのティーカップがあるばかりだった。ピンクのルージュをひいたレイのくちびるから、つぶやきがもれた。「おかしいわね。みんな、どこにいったのかな……。」

☆



小海マコト <探偵番号 001>
 牡羊座 血液型 A 型。風浜市立旭小
 学校 6 年。家は風浜港のそばでラ=
 メール洋菓子店を営む。フランスで
 修業した腕のいいケーキ職人のパパ、
 おしゃべり好きであわてもののママ
 と 3 人暮らし。
 ●得意科目: 国語 (といっても成績
 はよくない。謎だ!) ●特技: 早ぶ
 る ●趣味: ミステリーを読むこと ●
 将来の夢: 江戸川乱歩賞を受賞し、
 作家デビューしたい!

鳥遊飛鳥 <探偵番号 002>
 天秤座 血液型 A B 型。私立山王学園初
 等部 6 年。建築家のパパとインテリア
 コーディネーターのママと 3 人家族。
 ●得意科目: 社会と理科 ●特技: 恐竜の
 名が全部いえる ●趣味: コンピュータ=
 ゲームと野原たまみ ●将来の夢: 弁護士。



林葉みずき <探偵番号 003>
 獅子座 血液型 O 型。葉村市立第 2
 葉村小学校 6 年。パパは東京の役所
 に勤務。ママと大学生の兄の 4 人家
 族。兄はドイツに留学中。
 ●得意科目: 国語と体育 ●特技: マ
 ラソン ●趣味: ダルメシアンのはち
 と遊ぶ ●将来の夢: ホノルル=マラ
 ソンとボストン=マラソンに出場したい。



仙崎ダイ <探偵番号 004>
 乙女座 血液型O型。藤堂市立若
 小学校6年。家は建設会社を営む
 両親と小学生になったばかりの妹
 夢ちゃんとの4人家族。
 ●得意科目：算数●特技：将棋●趣
 味：ダイエット（と本人はいうが、
 やっている気配はぜんぜんない）●
 将来の夢：プロ棋士になること。

神岡まどか <探偵番号 005>
 魚座 血液型B型。四葉女子大学付
 属小学校6年。コンピュータ開発の
 第一人者のパパ・神岡博士と二人暮
 らし。ママはいない。
 ●得意科目：音楽と図工●特技：英
 語。ネコと話ができる（らしい）
 ●趣味：料理●将来の夢：宇宙旅行。



ネロ＝野沢レイ <電子探偵団団長>
 双子座 血液型AB型。元コンピュータ＝エ
 ンジニア。喫茶店「ベーカー街」を経営。そ
 れ以外の私生活データは、すべて謎のまま。

「あれ、ここ、どこだ？」

気がつく、マコトたち五人は奇妙な場所にいた。あたりにはまっ白い地面がひろがっているばかり。ほかにはなにも見えない。

「へんなところにきちゃったなあ。」

「ほんとに。白の世界っていうのかしら。なんだかファンタジーみたい。」

ダイとまどかが口々に感想をもらす。

「ファンタジーはいいんだけどさ。」

みずきがむずかしい顔でつづけた。

「でも、なんで？ あたしたち、『ペーカー街』にいたんだよね。それがなんで、こんなことになっちゃったわけ？ ね、マコト、どうしてなの？」

「そんなときかれたって……。」

マコトはことばにつまった。いったいなにが起きたのか、さすがの名探偵マコトにもさっぱり

わからなかったのだ。そのとき、飛鳥あすかが前方ぜんぽうを指ゆびきして、

「ちよつと、みんな。あれを見ろよ。」

地じべたに、なにか模様もようのようなものがえがかれている。いや、模様もようではない。それは文字もじだつた。白しろい地面じめんに、黒くろいインクで、こんな文ぶんが書かきこまれていたのだ。

『以下いひかの漢字かんじはある法則ほうそくにしたがつてならんでいる。

へ一人山中世光体宝海馬悪散愛疑影機謎曜鏡隴魔
驚驚鷹籬籬

その法則ほうそくを見やぶり、つぎの文ぶんを解読かいどくしたまえ。

悪海愛海隴一隴海驚一、海愛一、宝影疑疑影疑一悪一疑海海曜魔。』

「これって、ひよつとして……。」

まどかがつぶやく。受けて、飛鳥あすかとみずきが声こえをそろえた。

「暗号あんごうだ！」

「暗号あんごうじゃん！」